

# 夏休み子供たちはビッグな 思い出をたくさんつくったぞ

## 24人の仲間が中国大陸へ羽ばたいた

少年の翼・7月26～31日

幅広い国際感覚を持った人材を育てようと、「柳川市少年の翼」が5泊6日の日程で行われ、市内の小学生24人が中華人民共和国を訪れました。少年の翼は旧柳川市が平成10年から行っているもので、今年で8回目。校長会、PTA連合会、公民館、子ども会などで実行委員会を組織し、事前に3回の研修会も行われました。

訪れたのは北京、西安、上海の3都市。北京では故宮博物院や天安門広場を見学し、市内の六一小学校を訪れました。最初は緊張ぎみの子供たちもジャンケンゲームなどが始まると、身振り手振りで打ち解け合い、すぐに仲良くなり、歌や、プレゼント交換などで楽しく交流しました。また、長さ6000キロといわれる万里の長城を見学し記念植樹も行いました。

西安では、早朝に太極拳を体験。秦の始皇帝陵墓を守るためにつくられたといわれる兵馬俑坑を見学し、兵馬俑のミニチュア作りや小麦粉をこねたかたまりを、刀を使って切り落とす刀削り体験もしました。



北京の中心にある故宮博物院。その広さには圧倒された

上海少年宮では地元の子供たちとダンスや折り紙などをして楽しみ、上海雑技も鑑賞しました。最終日はリニアモーターカーで上海空港へ。中国大陸の歴史や文化にたっぷりふれる研修となりました。



上海少年宮で地元の子供たちとダンス



北京の小学生と交流。一緒に食事やゲームなどをして楽しんだ

この夏、柳川の子供たちは中華人民共和国や大分県竹田市へ出かけ、大分県塩尻市の子供たちを迎え、様々な体験をし交流を深めました。子供たちが体験した3つの事業を紹介します。

## 長野県塩尻市の中学生と川下りやたこ釣りで楽しんだ

少年少女国内交流事業・8月2～4日

長野県塩尻市と本市の中学生が交流を行う「柳川市少年少女国内交流事業」が2泊3日の日程で行われました。

この事業は、昨年本市の子供たちが塩尻市を訪れたのがきっかけ。今回は塩尻の子供たちが本市を訪れました。参加したのは、塩尻市の中学生18人と市内の中学生13人。昨年の交流事業にも参加した子供もいて、三橋公民館で行われた「対面式」では、1年ぶりの再会に喜び合う姿も見られました。

子供たちは班ごとに川下りを体験した後、白秋生家を見学。この日はかんばんで交流レクリエーションを楽しみ、宿泊。2日目は漁船に乗り込み、有明海でたこ釣り体験をしました。海がない長野県の子供たちは、漁船に乗るのも初めて。えさを使わない釣り方や釣れたたこが腕に吸い付く感触、その動きなど驚きの連続でした。午後から塩尻市の子供たちはホームステイをする市内6家族の人たちと行動。ひまわり園を見学したりボウリングや花火などをして楽しみました。

塩尻と柳川の子供たちの交流はまだ始まったばかり。子供たちは、交流を通じて自分たちの住む地域の自然や文化の素晴らしさをあらためて見直し、人のやさしさや家族の絆の大切さを感じていました。



たこ釣りのために、漁船に乗っていざ出発!



ゲームをしながら、お互いの名前を覚えた



万里の長城には世界からたくさんの人が観光に訪れていた

## 竹田市で竹田・延岡の子供たちと交流

3市児童体験交流会・8月8～10日

大分県竹田市と宮崎県延岡市、本市の3市の小学生が交流する「3市児童体験交流会」が、2泊3日の日程で竹田市で行われました。参加したのは3市の6年生がそれぞれ15人ずつで合計45人。柳川の子供たちは午前7時半に柳川を出発し、約2時間半かけて体験宿泊施設「あ祖母学舎」へ。出会いの集いの後、久住山ろくで牛の乳しぼりやとうもろこしの収穫を体験。とうもろこしはやわらかくて甘く、子供たちは生で食べていました。夜はバーベキューで、歌や踊りを披露しながら楽しく過ごしました。また大型望遠鏡を使った天体観測では、澄んだ夜空の中、木星を観測することもできました。

このほか交流会では、カヌーや陶芸にも挑戦。また、わき水を利用した川の水すべり台や岩場などもある河川プールでは、冷たい水の中で歓声をあげて大はしゃぎでした。

詩聖・北原白秋を生んだ柳川市は、楽聖・瀧廉太郎を育てた竹田市とは昭和57年に姉妹都市に。歌聖・若山牧水ゆかりの延岡市とは昭和59年に友好都市になりました。3市で九州文学観光ルート協議会を結成し、産業・経済・教育・文化などの交流を深めています。3市の児童体験交流は今回が3回目になりました。



交流会に参加した柳川の子供たち(あ祖母学舎の前で)



久住山ろくの牧場で牛の乳しぼりを体験